

令和7年度 東京都立瑞穂農芸高等学校(定時制課程) 学校経営計画

1 教育目標と目指す学校像<スクールミッション>		
校訓「至誠」「勤勉」「創造」を教育目標に掲げ、知性・感性・品性をはじめ豊かな心と体を育成します。「命に学ぶ学校」として教育資材を活用し、規範意識の定着を図るとともに、「しる」「分かる」「できる」「つかう」の四段階で学習意欲を向上し、社会の変化に対応できる資質や能力を育成します。 ◇グラデュエーション・ポリシー ・互いを尊重し合い適切にコミュニケーションがとれる力。・社会で生活していく上での基本的なマナー・態度。 ・進路実現や課題解決に向けて積極的に学習しようとする態度・社会的自立に必要な基礎学力 ◇カリキュラム・ポリシー 「生命（いのち）に学び夢を叶える～Learn about life and realize your dreams」を掲げ、生徒の能力を向上させ、有為な社会の形成者となることを願い、以下の取り組みを進める。 ◇アドミッション・ポリシー 「至誠・勤勉・創造」の校訓の下、自らの能力や特性を伸ばし、希望する進路を実現するため、以下の5つのような生徒を育てます。		
目指す学校像	本校では、勤労青少年への支援に加えて、不登校経験者や再チャレンジを目指す生徒の学び直しの場、また、将来の進路を決めかねている青少年には、居場所と自らのキャリアを考える機会の提供など、多様な役割を積極的に果たすことを目指す	
	(1)	自他の存在を認め、思いやりの心や社会の基本的なルールを身に付ける
	(2)	基本的な学習態度を確立し、自己の特性や能力を伸ばし自信と誇りをもつ
	(3)	体験的な活動をとおして望ましい勤労観・職業観を育成し、将来の進路に向けた確かな意欲をもつ
	(4)	生命や環境を大切にする教育活動をとおして、豊かな人間性を育み、健康づくりの推進に努める
2 中期的目標と方策		
(1) 学習指導の充実		
中期目標	本校生徒の学力を的確に把握し、スクール・ポリシーを踏まえた学習指導要領の示すところに従い、適切な授業計画の作成及び授業時数の確保を行い、卒業時まで身に付けるべき学力の設定を行う。また、生徒の実態に合わせた教育活動の展開をとおして、分かる楽しさが実感できる授業を実践する	
方策	(1)	生徒による授業評価を活用して授業を改善し、分かる授業を実践する
	(2)	4年間を見通して、生徒一人一人の能力に合ったきめ細かな学習指導をとおして学力向上を図る
	(3)	学校外の学修や三年修了制度など様々な学習体系を整備し、学習への意欲を喚起する
	(4)	生徒一人一人の状況に対応した必要な支援を行うことで、基礎学力の向上を図るとともに個々の学習計画の作成・実施を推進する
	(5)	「東京都オリンピック・パラリンピック教育実施指針」に基づき、障害者理解を促進する
	(6)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導と評価の改善を行う
	(7)	各教科は、持続可能な社会づくりに向けた教育のために、SDGsを取り入れた授業を実施する
(2) 生活指導の充実		
中期目標	本校で定めた、「身に付けさせる規律・規範」を自ら守る意識を確立させ、他を思いやる心を育む	
方策	(1)	集団生活をとおして自他を認め合い、思いやりのある人間に育てる
	(2)	生活指導やホームルーム指導をきめ細かく組織的、継続的にを行い、授業規律や基本的生活習慣を確立させる
	(3)	スクールカウンセラーなどを活用し、相談体制の充実を図る
	(4)	体罰など不適切な指導を根絶して、暴力・暴言を否定する心を醸成する
	(5)	いじめ総合対策に基づき、いじめや迷惑行為の早期発見に努める
	(6)	自分の学校に誇りをもつ心を醸成する
(3) 進路指導の充実		
中期目標	1年次からの組織的・計画的な指導をとおして自ら進路を切り拓く自覚と意欲をもたせる	
方策	(1)	教育活動全般をとおして、将来の進路に向けた能力と態度を育成する
	(2)	進路指導全体計画を基に、進路講話や進路の手引きを活用した進路学習を行い、自己の適性を見付けさせる
	(3)	企業や学校見学等を推進し、将来への意欲と望ましい勤労観や職業観を身に付けさせる
(4) 特別活動の充実		
中期目標	体験的な教育活動や集団活動をとおして、協調性と社会性を育成する	
方策	(1)	奉仕体験活動をとおして、豊かな人間性を培うとともに社会の一員として望ましい資質や能力を養う
	(2)	生徒会活動や委員会活動、部活動を奨励し、社会性や公共心を育成する
	(3)	全教科・科目でオリンピック・パラリンピックの意義や精神、歴史などに触れ、生徒の心にオリンピックのレガシーを構築させる
(5) 健康づくりの充実		
中期目標	生徒の心の成長を図るために、面接を実施するとともに教育相談の充実を図る	
方策	(1)	スクールカウンセラーと連携して、生徒の変化を見逃さない
	(2)	通級制度の校内運営と支援体制の構築を行う
	(3)	特別支援委員会を中心として生徒状況に関わる情報を共有化し、発達障害などの特別な支援を必要とする生

		徒 に組織的に生徒支援を行う
	(4)	自殺総合対策大綱に基づき「生きることの阻害要因」を減らし、「生きることの促進要因」を増やす教育を行う
(6) 募集・広報活動の充実		
中期目標		都立瑞穂農芸高等学校定時制の情報を積極的に発信することにより、本校定時制で学習したいと考える意欲のある生徒を募集する
方策	(1)	日々の授業や学校行事などの活動をホームページやXに掲載して、その都度情報発信に努める
	(2)	P R 活動の充実、学校説明会への参加をとおして、瑞穂農芸高校定時制の魅力について発信する
(7) 学校経営の充実		
中期目標		地域に開かれ、生徒にも開かれた学校となるように、教員・生徒・保護者・地域が一体となって、生き生きとした教育活動が推進できるように努める
方策	(1)	授業公開や体験入学の規模を拡大していく
	(2)	学校運営連絡協議会を充実させ、また、町役場、町内会などと連携を深める
	(3)	保護者に対して積極的な学校行事への参加を促し、学校教育への参画意欲を高める
	(4)	学級通信、学年通信、学科通信、各分掌通信発行の充実を図る
	(5)	経営企画室の経営参画を推進し、経営参画型経営企画室の実現を図る
	(6)	学校における働き方改革推進プランに基づき、ライフ・ワーク・バランス対策を推進する
	(7)	仕事の効率化を図るために、最大限のP C ミニマムスキルを活用する (Teams などを含む)
3 今年度の取組目標と方策		
(1) 教育活動の目標と方策		
①学習指導	(ア)	すべての教員が「聞く」「話す」「読む」「書く」などの言語能力を付ける授業を実践し、アウトプットの機会を設け、基礎学力とともに「考える力」を身に付けさせる
	(イ)	授業前後や長期休業中の補習授業を計画的に展開して、基礎基本の定着と確かな学力の増進を図る
	(ウ)	生徒一人一人に合った達成目標を設定し、きめ細かく指導することによって全生徒に全科目を修得させるようにする
	(エ)	I C T 機器をはじめ、一人1台端末を活用し分かる授業を実施する。Microsoft Teamsを活用した新たな学習の展開を行う
	(オ)	O J T を活用した授業力の向上への取り組みを推進する
	(カ)	資格取得やインターンシップ、現場実習など、学校外の学習を行う中で職業観を育成する
	(キ)	プロジェクト学習やプロジェクト研究活動をとおして、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす
	(ク)	農業科目においては、新東京都G A P に関する教育に取り組む
	(ケ)	アクティブ・ラーニング型の授業を取り入れ、基礎的な学力及び「考える力」を身に付けさせることに取り組む
	(コ)	東京グローバル人材育成計画' 20を踏まえ英語力や課題を解決する能力を育成する
	(サ)	各教科は、持続可能な社会づくりに向けた教育のために、S D G s を取り入れた授業を実施する
②生活指導	(ア)	生活指導指針の共通理解を図り、規範意識を醸成する。さらに、本校定時制課程特別指導計画に基づき「反省」「改善」を促す指導を行う
	(イ)	遅刻指導に全職員で取り組み、時間厳守の習慣を身に付けさせる
	(ウ)	個人面談や三者面談、保護者会、毎日の教員打合せなどをとおして、生徒の動向を把握し、生徒が安心して生活できるよう努める
	(エ)	生徒の状況把握と情報交換を日々実施し、きめ細かな指導に当たる
	(オ)	人権教育や生命を大切にする教育、セーフティ教室などを計画的に実施し、生命を尊重する心や思いやりの心を育む
	(カ)	避難訓練や交通安全・防犯講話、薬物乱用防止講話をとおして、安全教育を推進し、公共の場や交通のルールやマナーを守る意識を高めさせる
	(キ)	体罰など不適切な指導を根絶し、暴力、暴言を否定する心を醸成することで、いじめのない学校を実現する
	(ク)	部活動を活性化するために、大会や研究参加、情報発信などを積極的に行う
③進路指導	(ア)	キャリア教育を推進し、自己のあり方生き方を見つめさせ、自ら進路を切り拓く力を育成する
	(イ)	企業見学、進路ガイダンスなどを充実させ、進路に対して具体的な目標をもたせる
	(ウ)	4年間進路カレンダーや進路の手引きを活用して入学から卒業まで組織的・計画的・系統的な進路指導を実施し、卒業時の進路 未決定者ゼロを目指す
	(エ)	進路指導だよりを年間8回以上発行して、生徒及び保護者に対しての情報提供を行う
	(オ)	組織的な点検体制を整え、確実な公文書(調査書、推薦書)作成を目指す
④特別活動 部活動	(ア)	生徒会役員に企画・運営をまかせ、生徒が主体的に活動できる学校行事を展開する
	(イ)	奉仕やボランティア活動などの体験的な活動を奨励し、社会性や公共心を養い、時と場に応じた身なりや所作がしっかりとできる態度を養う
	(ウ)	計画的なホームルーム活動を実施し、教員と生徒の緊密な関係を通して集団活動の意義と大切さを

		自覚させる
	(エ)	全クラスが、瑞高祭の展示を行い生徒の学校行事への参加を促す
	(オ)	学校行事の参加を促し、球技大会等とおして体力向上を図る
	(カ)	東京都教育ビジョン（第5次）（令和6年3月策定）及び「未来の東京」戦略（令和3年3月策定）等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進します。特にTeamsを活用したオンライン活動の工夫に努める
⑤募集活動 広報活動	(ア)	ホームページやXをはじめ、中学校訪問、体験入学、学校説明会などによる広報活動を充実させ応募者数を確保する。一次応募倍率1倍を目指す
⑥健康促進	(ア)	日常の生徒指導をはじめ、健康診断、保健講話、学校保健委員会を通し、生徒の心と体の健康づくりを行う
	(イ)	スクールカウンセラーを活用した教育相談活動を積極的に進め、心の悩みを抱える生徒に的確に対応するとともに、教員のカウンセリング能力を高める
	(ウ)	「TOKYOACTIVE PLAN for students」（令和4年3月策定）（総合的な子供の基礎体力向上方策（第4次推進計画））を参考にした生徒の体力向上への取組を踏まえ、学校行事などを活用し生徒の体力向上に対する取り組みを推進する
	(エ)	体験活動などを活用して、SOSの出し方に関する教育や心の健康の保持に係る教育を推進する
	(オ)	通級による指導体制を、学年及び各分掌と連携を図り組織的に行う
	(カ)	保健だよりの配布とホームページなどへの掲載を行い、保健教育を推進する
⑦学校経営 組織体制	(ア)	企画調整会議や職員会議、校内研修をととして、教職員の協働態勢のもと教師力向上を目指す
	(イ)	生徒一人一人へのきめ細かな指導をととして、中途退学者を減少させる
	(ウ)	経営参画ガイドラインを活用して、経営企画室職員の経営参画を推進する
	(エ)	ライフ・ワーク・バランス推進体制を検討・構築して、課題に取り組む
（２）重点目標と方策		
①学習指導	(ア)	授業はもとより補習・補講を計画的に行うことにより、基礎的な学力を身に付けさせ、希望進路の実現を図るとともに成績不振による中途退学や原級留置者を無くす
	(イ)	長期休業日中（5講座以上、延べ20名以上）の受講者を目指す
	(ウ)	各教科は、SDGs17項目持続可能な開発目標を選択して、各学期1回以上の授業を実施する
②生活指導	(ア)	授業開始のチャイムとともに授業を開始し、生徒に「時間を守る」意識を育成する指導を行い授業規律や礼節の指導を徹底し、社会の一員としての自覚を促す
	(イ)	個々の生徒に合わせたきめ細かい生活指導を行い、学校不適応や問題行動などによる中退者を出さないことを目指す
	(ウ)	1日1クラスあたりの遅刻者数を2.0人未満とするとともに、年間30回以上の遅刻者数を10人未満とする
	(エ)	言葉遣い、態度や集会における指導をととして、相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒を育成する
	(オ)	登下校時における交通ルール・マナーを適切に指導して、交通事故を防止する
	(カ)	いじめ防止アンケートを実施して、いじめの早期発見に努める
	(キ)	私物の管理意識を向上させ、物品紛失をさせない指導を行う。個人ロッカー施錠の徹底（ロッカーの施錠率100%）に努める
	(ク)	L I N E、XなどによるSNSによる誹謗中傷、いじめ嫌がらせ防止の指導を行う。また、ホームルームにて、パワーポイントを活用した「いじめ防止ガイダンス」を5月までに実施する
	(コ)	教職員は、授業などで教室移動があることから、SDGsの観点により節電を促す指導を行う
③進路指導	(ア)生徒個々の適性や希望に合わせた進路指導を徹底し、進路未決定のまま卒業する生徒を無くす	
	A	進学希望者全員に対しては、低・中学年より学習指導・論文指導をはじめとする受験指導を徹底する
	B	就職希望者には、第一希望の職場に合格できるよう、学習指導・論文指導・礼節指導をはじめとする必要な指導を徹底する
	(イ)4年間を見通した計画的なキャリア教育	
	A	あらゆる教育活動においてキャリア教育を推進し、自己の在り方生き方を考えさせるとともに、望ましい勤労観・職業観を育み、主体的に進路選択を行える生徒を育てる
	B	4年間を見通した学びのロードマップを活用し、組織的・計画的な進路指導を行い、進学や就職などすべての生徒の希望進路の実現を目指す
	(ウ)点検機能の充実	
	A	点検機能を充実させ、公文書・私文書のミスをゼロとする
④特別活動 部活動	(ア)	全クラスが瑞高祭の展示を行い、生徒の学校行事への参加を促す
	(イ)	部活動年間計画及び活動報告を、ホームページとXを活用して情報発信する
	(ウ)	地域と連携した奉仕体験活動を実施し、社会性を向上させる
⑤募集活動 広報活動	(ア)	ホームページやXの更新を積極的に行い、地域貢献や学校情報を提供して、本校への理解を深める機会を増やす

	(イ)	取り組んでいる募集活動関連のデータを精査する
⑥健康促進	(ア)	二者面談、三者面談を実施し、生徒の状況を把握するとともに、家庭と情報を共有化する
	(イ)	特別支援委員会（毎週）を行い、ＳＣとの情報共有を行う。また、グループエンカウンター事業を共有化し、特別な支援を必要とする生徒の個別支援計画を作成し、教員の共通理解の下、学校全体で合理的配慮を推進する
	(ウ)	全学年において体力テストの意義や目的を理解させた上で、年間指導計画に位置付けて実施します。また、結果の分析・評価を行い「基礎体力の補強運動」などをとおして、体力・運動能力の向上を図る
	(エ)	生徒理解に関わる校内研修を定期的に行い、生徒理解の推進と教員のカウンセリング能力を高め相談体制の充実を図る
	(オ)	清掃用具等の消毒、整備、清掃指導、美化活動、環境教育の充実により教育環境の整備を含め、生徒の健康安全を図る
⑦学校経営 組織体制	(ア)	全教員が、教員相互の授業参観（他教科を含む）を、年３回以上必須として取り組むことにより、授業力の向上を目指す
	(イ)	生徒情報の共有化を図ることで、個々の生徒状況を的確に把握し、学校として対応する
	(ウ)	行政系職員と教職員は連携を図り、経営参画ガイドラインのステップ２を実現する
	(エ)	都立学校保護者コミュニケーションシステムを活用し、緊急時などの学校情報を遅延なく伝える
	(オ)	Microsoft Teams、TAIMSメール・パワーポイントなどを活用して、業務の効率化を図る
	(カ)	年度当初に管理職が適正なイクボス宣言を行い、職場の主要な場所に掲示して教職員全体の「働き方改革」に対する意識向上を図る。また、「部活動ガイドライン」に従い、活動・指導時間の適正な管理に努める
	(キ)	定時外在校時間及びその要因となる業務の内容を把握する
	(ク)	産業医と連携して、前年度の定時外在校時間が多い教員やストレスチェックで課題のあった教員と面談し、業務縮減や心身の健康維持に対する具体策について指導・助言する。また、原因に応じて、校内の協力体制を強化するよう全教職員に働きかける

４ 令和６年度の数値目標					
項目		今年度の数値目標		５年度 (実績)	６年度 (実績)
(１)	学習活動	①	授業満足度の向上に努め、生徒による授業評価での満足度を向上させる ■数値目標：９０％	８７．７％	９２．７％
		②	授業を充実させ、原学年留置の生徒を減らす ■数値目標：０％	２．６％	３．３％
(２)	生徒指導	①	学校生活満足度の向上に努め、学校評価アンケートでの満足度を向上させる ■数値目標：９０％	８８．６％	９０．３％
		②	生活指導を充実させ、中途退学者数を減らす ■数値目標：５％	１０．５％	０％
		③	(ウ) 遅刻者数を減少させる ■数値目標：１日１クラスあたり２人未満 ■数値目標：年間遅刻３０回以上１０人未満	１．０人 (１日) ８人 (年間)	１．６人 (１日) ２人 (年間)
(３)	進路指導	①	進路指導満足度の向上に努め、学校評価アンケートでの満足度を向上させる ■数値目標：８０％	７７．８％	７２．３％
		②	就職指導を充実させ、就職希望者の決定率を１００％にする ■数値目標：１００％	１００％	８５．７％
(４)	募集対策	①	教員全員が中学校訪問を実施し、本校への理解を求める ■数値目標：４０校	４８校	４０校
		②	第一次募集での応募者数を確保する ■数値目標：応募倍率１．０倍以上	０．３倍	０．３倍
		③	学校説明会、授業見学会等についてホームページやＸ、ＦＡＸなどを利用して広く確実に広報し、来校者数を増やす ■数値目標：来校者数４０人	１８人	３０人
(５)	学校運営	①	ホームページなどを活用し、積極的に学校の状況を情報発信する ■数値目標：更新回数 ３００回	２７９回	３１９回